

山武稲作情報 第4報

(2022年7月4日発行)



山武農業事務所 改良普及課
TEL：0475-54-0226
FAX：0475-52-7914

山武地域の生育状況

6月27日に例年より早く梅雨明けしました。中干し管理を続ける必要があるほ場がある一方、幼穂形成期に達しているほ場も増えています。幼穂形成期に達したほ場から入水ができる環境になり次第、早急に水を入れましょう。

多くの早生品種は幼穂形成期が例年より遅くなりました。中生や、晩生品種は平年並みに生育が回復しつつあり、早いほ場では穂肥施用時期を迎えています。今後も高い気温と多照が続くことで、出穂期が予想より早まる可能性があります。いもち病や紋枯れ病、カメムシ類防除の準備も早めに行いましょう。

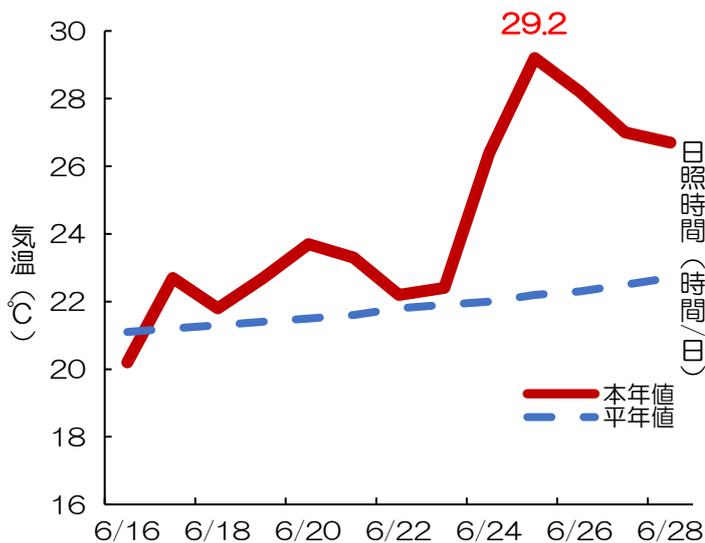


図1 日平均気温の推移 (アメダス、横芝光)

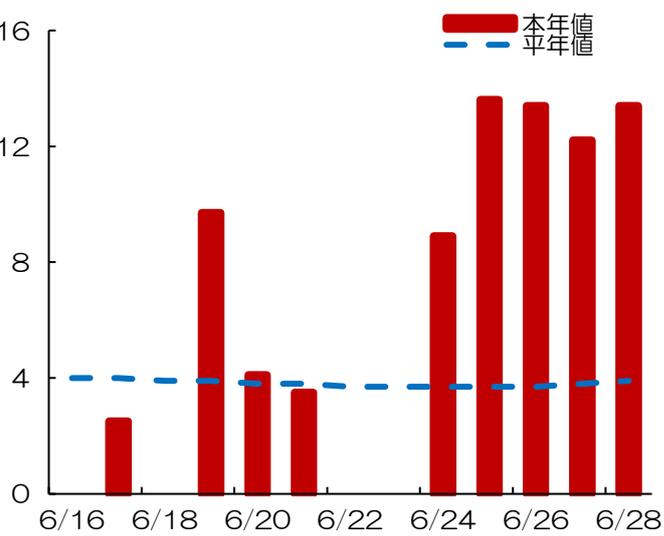


図2 日照時間の推移 (アメダス、横芝光)

出穂期予測 (6月29日現在) *1

移植日	品種			
	ふさおとめ	ふさこがね	コシヒカリ	粒すけ
4/20	7/8	7/9	7/16	7/15
5/1	7/15	7/16	7/24	7/24
5/15	7/24	7/25	8/1	8/2

*1 予測日は水稻生育予測システム「でるた™」(運用試験版)を用いて予測しています(アメダス横芝光)。

移植時の苗の葉齢、活着状況、ほ場の気象条件、予測日以降の気象条件により誤差がある場合があります。

病害虫発生予察情報 (6月15日現在)

病名	予想発生量 (平年比較)	防除上の注意事項
いもち病 (葉いもち)	並	発病を確認次第、薬剤防除する。
紋枯病	並	粒剤による薬剤防除は出穂20日前頃に行う。
イネクロカメムシ	並	成虫飛来期であり、発生が多い場合は薬剤防除をする。



*詳細は病害虫防除課のホームページをご覧ください。

水不足・高温による影響

今年は6月の降雨量が例年より少なく推移しました。中干しが過剰に進み、田面が大きくひび割れるほ場も散見されました(写真1)。梅雨明けから気温が高く推移しており、気象庁の1か月予報によると、向こう1か月は平年より気温が高いことが予想されています。

また、**今年は生育初期に還元障害が多く発生しました。根張りの悪い稲は吸水力が弱い**ため、**今後の水不足による影響が懸念されます。**水不足と高温による影響を確認し、今後の適正な水管理を励行しましょう(図1)。

◎水不足による影響

幼穂形成期に水不足に遭うと、枝梗や籾の発育が阻害され、1穂籾数が減少します。また、一部穎花の発育が阻害され**白ふ**となります。

穂ばらみ期(出穂期前5~7日)や出穂期、開花期においては、水不足が不稔籾発生の大きな要因の一つです。また、穂の抽出が阻害されることで、出すくみ状態となり、減収に繋がります。



写真1 条間のひび割れ

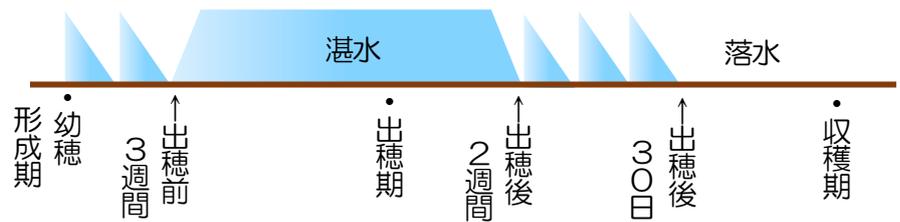


図1 幼穂形成期後の水管理

◎高温による影響

高温による影響は主に以下の2点があげられます。

① 千粒重の低下

夜温が高く、昼温との温度差が少ない場合、光合成により生成したデンプンが夜間の呼吸により消費されやすくなります。このことにより、千粒重が低下し、くす米が増加することで、減収に繋がります。



写真2 左: 基部未熟粒 右: 背白粒 (出典:農林水産省ホームページ)

② 白未熟粒の発生

出穂期後20日間の平均気温が26度以上の場合、**白未熟粒が発生し、品質の低下を招きます。**また、基部未熟粒や背白粒(写真2)は、出穂期以降の窒素不足や、早期の落水によって発生が助長されます。

白未熟粒の発生防止対策

- 葉色が淡い場合は、**出穂期前5~7日(穂ばらみ期)**に追肥を行いましょう(表1)。
- **出穂後30日**までは水を落とさないようにしましょう。



参考: 気候変動にも負けない米づくり

表1 各品種の出穂期の葉色目標及び、軽減対策における対策時期と窒素施用量

品種	葉色 (カラースケール値)	対策時期	窒素施用量
ふさこがね	4.5	出穂前7~5日	1kg/10a以内
コシヒカリ	4.2		
粒すけ	4.2		

ドローン等無人航空機の登録が義務化されました

無人航空機の利活用拡大における安全確保のため、無人航空機の登録が義務化されました。100グラム以上の全ての無人航空機が登録対象となっています。登録した機体を用いて、安全に注意しながら作業を行いましょう。

生育調査結果（幼穂形成期調査結果）

*本年値の()内は平年比(過去10年、ふさこがね、アキヒカリ、夢あおばは過去2年)との差を示しています。

*CS値とは、カラスケールによる数値を表しています。(調査は葉色計(SPAD)を用いています。)

コシヒカリ

場所・移植日	年次	草丈(cm)	茎数(本/m ²)	葉齢	葉色(CS*値)	幼穂形成期
東金市 5/3 移植	本年	65.0(98%)	350(71%)	11.6(+0.6)	4.3(93%)	6/30
	前年	60.0	426	10.9	4.1	6/23

ふさこがね

場所・移植日	年次	草丈(cm)	茎数(本/m ²)	葉齢	葉色(CS 値)	幼穂形成期
山武市 5/7 移植	本年	54.9(88%)	584(97%)	10.3(-0.6)	5.1(97%)	6/24
	前年	58.0	516	10.4	5.3	6/20

ふさおとめ

場所・移植日	年次	草丈(cm)	茎数(本/m ²)	葉齢	葉色(CS 値)	幼穂形成期
山武市 4/27 移植	本年	51.0(97%)	591(112%)	11.4(+0.2)	5.2(107%)	6/24
	前年	50.0	444	10.5	5.0	6/16

アキヒカリ

場所・移植日	年次	草丈(cm)	茎数(本/m ²)	葉齢	葉色(CS 値)	幼穂形成期
山武市 4/30 移植	本年	52.5(92%)	594(81%)	11.4	5.5(101%)	6/24
	前年	57.0	712	-	5.4	6/16

夢あおば

場所・移植日	年次	草丈(cm)	茎数(本/m ²)	葉齢	葉色(CS 値)	幼穂形成期(予測)
山武市 5/19 移植	本年	49.3(73%)	380(87%)	9.1	5.9(107%)	(7/8)
	前年	61.5	462	-	5.3	6/30

農林総合研究センター 成東育成地による生育調査結果

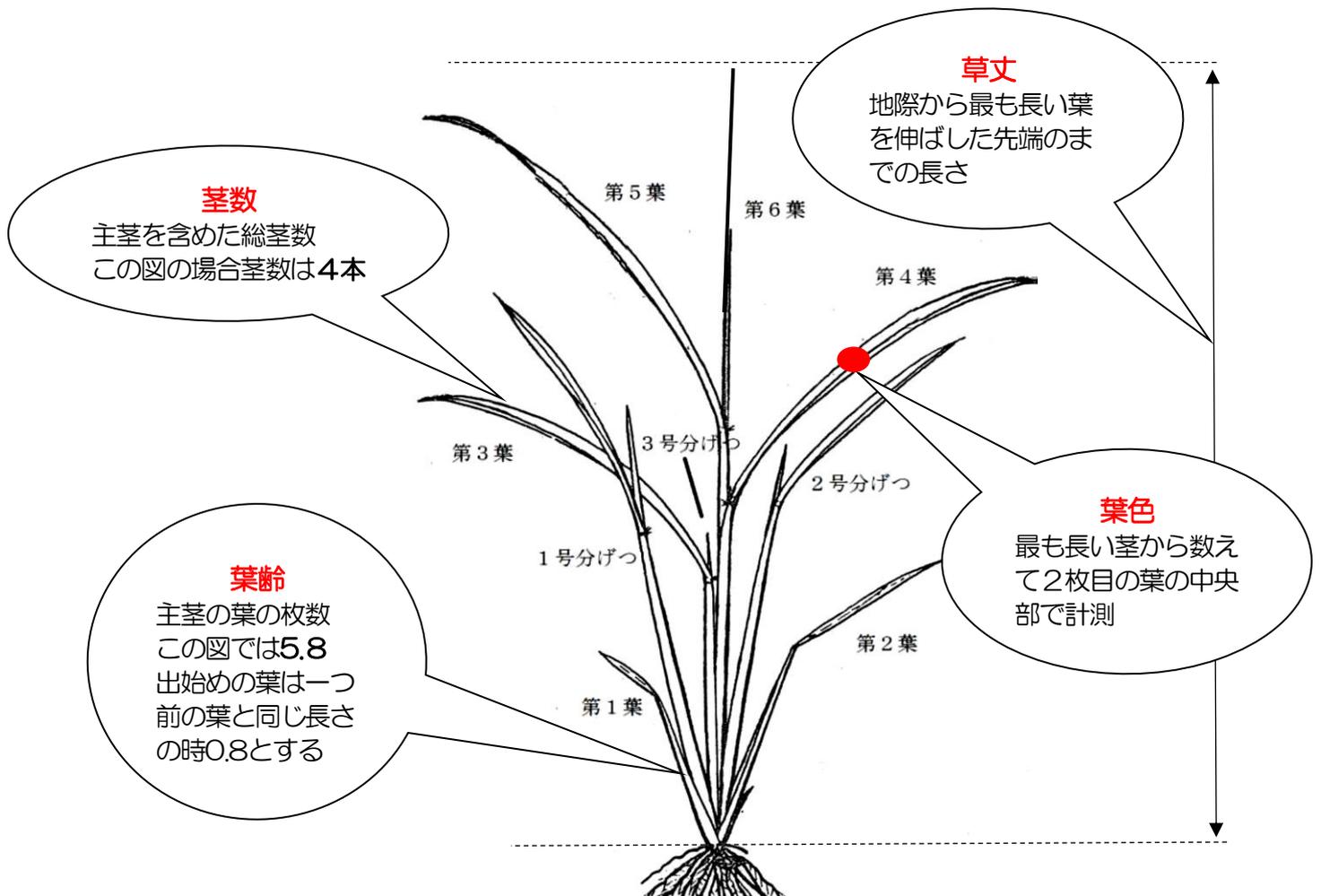
*本年値の()内は平年値との差を示しています。

*CS 値とは、カラスケールによる数値を表しています。(調査は葉色計(SPAD)を用いています。)

品種 移植日	年次	草丈(cm)	莖数(本/m ²)	葉齢	葉色(CS 値)	幼穂形成期
コシヒカリ 4/25移植	本年	56.4(100%)	564(102%)	10.4(+0.4)	4.2(101%)	6/26
	前年	61.4	572	10.6	4.1	6/23
ふさこがね 4/25移植	本年	46.5(89%)	553(98%)	10.0(-0.3)	5.1(104%)	6/19
	前年	55.1	634	10.7	5.0	6/21
ふさおとめ 4/25移植	本年	47.5(95%)	493(86%)	10.4(-0.2)	4.8(103%)	6/15
	前年	52.5	626	10.6	4.7	6/17
粒すけ 4/25移植	本年	59.1(105%)	462(92%)	11.1(-0.3)	4.1(93%)	6/26
	前年	56.3	569	11.4	4.4	6/23
粒すけ 5/16移植	本年	39.2(74%)	436(71%)	9.9(+0.1)	5.4(104%)	-
	前年	52.6	617	10.0	5.1	7/6

・データの見方 (調査基準について)

以下の図を参考に、稲を観察し、調査地点の数値と比較してみましょう。



出典：稲作標準技術体系（千葉県）を一部改訂
 次回の発行は7月27日を予定しています。